

ボランティア ハンドブック

Volunteer Handbook

ボランティアを
始めたい人に向けた本

あなたの「やってみたい」「できる」が
誰かのシアワセのきっかけに！

CHIYODA Volunteer Center ちよだボランティアセンター

みんなが参加し、支え合うまちづくり 千代田区社会福祉協議会

CONTENT

もくじ

1	はじめに	3 ページ
2	ゴルゴ松本さんインタビュー 「ボランティアはできることを、できる範囲で」	4 ページ
3	ボランティア活動をしている人たちの声	6 ページ
4	奥深い魅力のあるボランティア活動	8 ページ
5	ボランティアの4原則・ ボランティアってどのように始めるの？	9 ページ
6	活動するときのポイント	10 ページ
7	ボランティア活動の種類	12 ページ
8	こんな時どうする？ Q&A	14 ページ
9	ちよだボランティアセンターって どんなところ？	16 ページ
10	ボランティアセンターより一言	18 ページ
11	【コラム】 コミュニティ&ボランティア	19 ページ



あなたがこの本を手にとった理由は何ですか？

困っている人の役に立ちたい

何か変わったことをしてみたい

自分の新しい一面を見つけない

新たな仲間や居場所がほしい

さまざまな理由があると思います。

例えば、人と関わることが好きな人は人のケアやサポートをするボランティア活動。自分の趣味や特技を活かしたいのなら、それらができるボランティア活動。自分のスキルを活かしたい、人の笑顔を近くで見たい、人と関わることが好き、自分の趣味特技を活かしたい、新たなことにチャレンジしたい... どんなボランティア活動をしてみたいか、じっくり探してみたいか？

“ボランティア”という言葉を聞くと難しく感じるかもしれませんが、あなたの「できること」で支えられる人、元気になる人がいます。あなたの「できること」が誰かの「幸せ」になるかもしれません。「やってみたい」の気持ちをそのままにせず、実現させてみませんか？

このハンドブックは、これからボランティア活動を始めるときや、活動を行う上で、困ったときや活動を振り返る時に役立てていただきたいと思います。ボランティア活動をする皆さんが少しでも気持ちよく安全に活動できるよう、このハンドブックがお役に立てると幸いです。

「ボランティアはできることを、 できる範囲で」

“命の授業”で全国の少年院を巡り、独自の漢字を使った授業を通して、生きることや命の大切さを伝えているゴルゴ松本さん。ボランティアを始めたきっかけや続ける理由をお聞きました！

■なんで少年院で講演？

少年院での講演をはじめたきっかけは、2011年の知人からの依頼でした。最初は「なんで少年院？」と思っていましたが、知人の熱意に根負けし、依頼を受けることにしました。最初はあまり深く考えずに「会話しに行こう」

と自然体のスタンスで行きましたね。

およそ150人の少年の前で講演が終わった直後、外に出たら風が心地よく「人として、今できる範囲の良いことをした」という気持ちが沸き上がり、「これは続けていこう」と思いました。この感覚があるからこそ、ここまで続けてこれたと思っています。

今では運命の出会いだと感じています。

講演の中で「人間ってお母さんの頑張りで産まれているんだから、みんなお母さんや世の中の女性には感謝してほしい」という話をしています。出所した子の母親から”初めて「お母さんありがとう」としゃべってくれた」という感謝の手紙をもらったことがありました。これには自分も大きく心が動かされました。

講演時間の90分しか会わないけれど、彼らのうち1人でも何らかの気づきを得てもらえれば成功だと思っています。少年院での講演は、「ボランティア」という感覚はあまりなく、自分のライフワークの一つとして行っています。行けるときに行くっていうスタンスでやっているから続けていられます。

■ボランティアは「愛！」

ボランティアを漢字で表すと、やっぱり「愛」ですね。「愛」は「手（手伝う、さしのべる）」と「足（歩み寄る、駆け寄る）」と「心（まごころ）」で出来ています。愛のお裾分け、支え合うという意味で、まずは挨拶！僕は挨拶を大切にしていますね。挨拶って気持ちいいじゃない！会釈でもいいし。挨拶をするとね、相手に何かしらのきっかけを与えられると思っています。

■これからボランティアをしたいと考えている方へ

（ボランティアを）やりたい気持ちを持っていて、タイミングが来たらやればいい。きっかけ次第ですね。少年院での講演もそう。依頼があったから始めました。“ボランティア”

っていうとハードルが高く感じてしまいますが、“お手伝い”と同じ意味ですね。だからボランティア活動って何でもいいんですよ。結局は人と人とのつながりだと思います。それともう1つ。“思う”ということは心が動き始めているということ。思い立ったが吉日ということわざがあるように、その先は行動のみ！自分が幸せになるためにも、ボランティア精神を使ってみてはどうでしょうか。月に1回でも、週に1回でもいい、自分のできる範囲で楽しんで。



プロフィール

1967年生まれ、埼玉県出身。

お笑いコンビ「TIM」のツッコミ担当として活躍。「命」「炎」「祝」の文字を身体で表現する持ちネタが有名。漢字の成り立ちや日本の歴史に独自の解釈を加え、命や言葉、人生の大切さを伝える「命の授業」を行っている。2011年から少年院での講演を行い、2018年に法務省から要請を受けて「矯正支援官」に任命された。



『Youtube チャンネル』⇒



ボランティア活動をしている人たちの声



ボランティアグループ
「らぶ＆サービス〜ひとり親家庭支援〜」代表

小山晴美さん

Q1.活動するまでの流れ

千代田区の子どもたちに朝食を提供し、サポートする“朝食支援”を始めたいと思い、ボランティアセンターに相談に行きました。そこで2020年のコロナ禍でひとり親家庭が大変な思いをしていることを知り、主にひとり親家庭のサポートをするボランティアグループを立ち上げました。そして、社会福祉協議会が交付する助成金やクラウドファンディング等を活用して、区内在住のひとり親家庭に向けて、宅食ボックスを二度送りました。その他にもひとり親家庭のつながりを築こうと、イベント型のサロン活動をスタートしました。

Q2.どんな想いでボランティア活動をしていますか？

今の子ども達が次世代を作ってくれるので、子ども支援をすることはすごく大切だと思っています。彼らが社会を変える原動力になるからです。小さい時の体験は一生残ります。ひとつでも「あの時楽しかった、嬉しかった」ということが増えれば、いつかその子ども達が大きくなつたときに、その体験を誰かに引き渡すことができればいいなあ、との想いで、自分たちができる小さな活動をしています。



傾聴ボランティア

井本邦子さん

Q1.活動するまでの流れ

千代田区に引っ越してきたばかりの時に、ボランティア活動をしたと思い、ボランティアセンター主催の講座に参加したのがきっかけです。その講座でボランティア登録をしました。後日、おひとり暮らし高齢者の傾聴（話し相手）ボランティアをしてほしいとの相談があり、引き受けさせていただきました。現在は2件の傾聴ボランティアとして活動しています。

Q2.どんな想いでボランティア活動をしていますか？

私は「ボランティアは自分のためにする」という考えです。歩道の脇に咲く花を見て、やさしい気持ちになる人が増えるなら花を増やすボランティアを。介護に疲れた人がちょっと心を休めるお手伝いを。悲しいこと、苦しいこと、辛いことを抱えている人のそれらを共有できる人として。結果、お互いに幸せを感じる瞬間が重なっていくような活動に繋がるといいなと思っています。幸せを感じるお手伝いができれば、自分も幸せになれるから続けています。



福祉施設のご利用者の方への
ネイルを実施

内海 紀公子さん

施設職員の方から、ネイルが変わっていく利用者様の様子を聞いて、女性のいくつになっても綺麗になりたいと思う気持ちや、可愛いや綺麗にに対するよい感情の変化を感じています。普段は交れなかった方と、ネイルを通してお話しでき、関係が深まり、毎回の訪問が楽しみで楽しみでワクワクしています。



児童発達支援・放課後等デイサービス
を利用しているお子さんと文通で交流

水野 佳世子さん

(株式会社セールスフォース・ドットコム)

子どもたちのことを思いながら手紙を書くボランティア時間は、とても楽しく、日常とは違う大切な時間になっています。



福祉施設でマジック披露

三好 勲さん

マジックは、「不思議・驚き・笑い」で、老若男女に喜んでもらえる「トクな芸」です。演じて「観客の笑顔が見られる」その快感が私の喜びであり、ボランティアの原動力です。ご指名いただければ、喜んで参上いたします。



ボランティア登録者

唐澤 千春さん

私がボランティア活動をしたと思ったきっかけは、以前ボランティアセンター主催のボランティア講座に参加した時に、人の気持ちに寄り添える人がとても素敵だと思ったからです。また私自身、日常生活で沢山の人の世話になってきたので大学生になって次は私が人を助ける番だ、と思うようになったのも理由のひとつです。



図書館での本の貸借代行ボランティア

鶴岡 久子さん

以前より何かボランティアをしたいな！と思い、ボランティア登録をしていました。そんな折にボランティアセンターから図書館へ行き、本の貸し借り代行をするボランティアを求めていると案内を頂き、すぐに受けたいと伝えました。月に2〜4回位の図書館通いは私自身の用事もこなせて、楽しくお手伝いをしています。これからも続けていきたいと思っています。



使用済み切手整理活動ボランティア

吉田 幸子さん

幅広い年代の人たちとおしゃべりするのが楽しみで、活動を続けています！



地域のごみ拾いや児童養護施設への訪問、高齢者や障がい者の自宅清掃、災害支援、オンラインでできるボランティアなど幅広く活動

小園 高寛さん

(JAPAN COMMUNITYIMPACT [JCI] ジョンソン・エンド・ジョンソングループの有志社員で構成)

「ありがとう、またお願いね。」と、笑顔をいただく大変励みになります。JCIでは「できる人が、できる時に、できることを」をモットーにしており、できる範囲で参加することが続けられるコツだと思います。



簡易防護服を作成し、千代田区内の医療・福祉施設へ寄付、被災地での復旧支援活動など幅広く活動

塚原 幹斗さん

(NPO法人国際ボランティア学生協会IVUSA
市ヶ谷クラブ)

「誰かのためになることがしたい」という想いから様々な活動に参加してきました。実際に活動することで社会問題をより深く知れまし、地元の方から感謝の言葉を頂けることも多く、やりがいを感じています。



区内障がい者施設でイベント手伝いやランチ交流会、地域団体等への寄付活動など幅広く活動

富永由紀さん・三好夕貴さん・三浦彩花さん

(株式会社パソナグループ)

「社会のために出来ることをしたい」という想いを実現できる機会となっています。経済活動が活発な地域ですが、社会貢献の観点でも地域を盛り上げられることにやりがいを感じています。

奥深い魅力のある ボランティア活動



ボランティアは「やりたいからやる」「楽しい」「新たな自分の発見」「人との出会い」ができる体験です。難しそう...と構えずに自分の想いを大切にして活動してみてください。新しい自分と出会えるかもしれません。

●ボランティア活動が続ける理由は？

やりがいや、社会の役に立てている実感があるから	38.9%
様々な立場の人と交流できるから	27.1%
もともと興味のある活動だったから	21.6%
活動を通じて知識や経験、気づきを得られるから	20.9%
自分の技術や能力、経験を活動に活かせるから	18.5%
周りの人が続けているから	17.2%
身近に放っておけない問題や課題があるから	15.7%

出典：都民等のボランティア活動等に関する実態調査

都民等のボランティア活動等に関する実態調査(2019年3月)によると、ボランティア活動が続けている理由のうち最も多かったのは「やりがいや、社会の役に立てている実感があるから」38.9%、次いで「様々な立場の人と交流できるから」27.1%、「もともと興味のある活動だったから」21.6%という結果になっています。自分の居場所ができることや、仲間との出会い、自分自身の成長をボランティア活動がもたらしてくれるということですね。

●地域を変えていく！新たなしくみをつくりだす面白さややり甲斐がある

ボランティアの活動方法は様々ですが、自分のアイデアを活かせることも面白さの一つです。自分の技術やひらめきを発揮することで、地域で新しい仕組みをつくり、誰かの助けや幸せにつながるがあります。

●お金では得られない出会いや発見、感動がある

ボランティア活動では金銭的な報酬は求めません。お金を得ることは出来なくても、喜びや達成感など素敵な体験を得ることができます。

ボランティア4原則



自主性・自発性

自分の意志で

自分の意志で行うことが大切です。
活動に納得しなかったら、「活動しない」というのも選択肢のひとつです。



創造性・先駆性

よりよい活動をつくる

ボランティア活動から新たな支援の仕組みが生まれることがあります。
ボランティア活動ならではの自由な考え方が、地域の課題を解決する糸口になります。



社会性・連帯性

みんなとともに

誰もが幸せに暮らせるように、地域の困りごとや課題の解決に向けて活動しています。



無償性・無給性

お金では得られない出会いや学び

お金をもらうことや、自分だけが満足することを目的とはしません。
お金では得られない出会いや学びがあります。

ボランティアってどのように始めるの？

あせらず、気楽な気持ちで始めてみましょう。もちろん「お試し」も可能です！

個人で活動

- ・ 高齢者の話し相手
- ・ 図書の受け渡し
- ・ 特技を生かした活動
etc...

自分で新しい活動・ 団体を立ち上げる

参加して活動

ちよだボランティアセンターには、様々な分野のグループが登録して活動しています。

ボランティアセンターに相談

「いきなり活動をはめるのは勇気がいる」「どんな団体なのか気になる」
など不安なことがあればお気軽にご相談ください。

活動するときの ポイント

Point !



身近なことから、無理をせず

- 今の自分にできる身近なことから始めてみてください。
- 自分の生活スタイルに支障のない範囲で計画を立てましょう。
- 余裕をもった活動が長続きの秘訣です。

約束や秘密は必ず守る

- 訪問時間や活動内容、どんな小さなことでも約束は守りましょう。
- 活動中に知りえた個人情報他人には漏らさないようにしてください。

お互いの“合意”が必要

- どんなボランティア活動でも、必ず相手が存在します。“相手のして欲しい気持ち”と“ボランティアができること”の確認が必要です。

「してあげる」「してもらう」関係ではなく、 双方向性のある関係を

- “困っている人のためにしてあげること”という考え方ではなく、空いた時間や得意なことを活かして誰かの生活に少しの彩りを加えられると考えてみてください。援助する側も、人との出会いや新しい発見、喜びを得ることができます。

活動を続ける秘訣

■ボランティアは互いに支え、支えられる“お互い様”が大切な活動です。1人で頑張りすぎずに、他のボランティアや活動先の担当者に「助けて」「手伝って」と言えることも大切です。

■お金、場所、時間、人間関係などあらゆる場面で無理をせず、楽しみながら取り組んでみてください。

「待ち」の姿勢も大切

■ボランティアに大切なことは、相手が必要なときに手をさしのべることです。

■必要以上の支援は相手の自立を妨げる場合があります。押し付けにならないよう気を付けましょう。

相手の気持ちを尊重しましょう

■常に相手の気持ちを考え、相手の希望に合った支援や関わりを心掛けましょう。

ボランティアに係る費用のこと

■ボランティア活動の際に費用は発生するのか（活動謝礼金・交通費・昼食代など）活動を始める前に確認しておきましょう。

保険に加入しましょう

■安心して活動をしていただくためにもボランティア保険への加入をお勧めします。

■詳細は右記のQRコードまたは、【東京福祉企画】ホームページからご覧いただけます。



ボランティア 活動の種類

あなたの“できること”で誰かをサポートし、笑顔にすることがボランティアです。その中の例をご紹介します♪



施設ボランティア

(高齢者施設、障がい者施設、保育園、児童館 など)

◆話し相手、遊び相手

利用者との話し相手などの交流

◆介助ボランティア

車いす介助・食事介助など

◆趣味、特技の指導

囲碁や将棋の相手、書道や花道、
編み物、お菓子作り、学習や作業の指導

◆専門技術を活かした活動

理容、美容、ネイル、大工など「技」を
活かしたボランティア

◆施設行事の手伝い

祭や運動会、バザーなどの企画や運営の手伝いなど

◆施設内での軽作業

洗濯物たたみ、裁縫、花壇や菜園の手入れなど

◆訪問活動

歌や楽器演奏、劇、踊り、マジック、落語などの披露



特技・趣味・資格などを 活かした活動

◆指導ボランティア

書道、演芸、パソコン、スマートフォン、
菜園、料理、お菓子作り、お茶、お花、写真、
昔遊び、レクリエーション、囲碁、将棋、
歌、楽器、踊り、着付け、体操など

◆高齢者、障がい者、子育て支援

手話通訳、要約筆記、点字、字幕、音訳、
朗読、外出支援、移送、話し相手など

病院ボランティア

・外来患者さんの院内案内、付き添い
・病気の子どもと家族の滞在施設の
ボランティア (清掃、備品補充、電化製
品の作業確認、菜園の手入れ、イベントの
手伝い、事務作業など)

収集・寄付・募金

- ・使用済み切手や書き損じはがきの収集、寄付
- ・使用済み切手の整理活動
(使用済み切手は、集めて整理し、換金します。
換金したお金は地域の高齢者や障がい者、
子どものサポートに役立てています。)
- ・福祉施設や団体へ食品や文房具、衣類など
の物品や寄付金の提供

自然や地域の環境を守る活動

- ・ごみ拾い、清掃活動など



国際交流

- ・通訳ボランティア
- ・外国人の日本語(学習)支援ボランティア
- ・異文化交流など

地域でできる活動

サロン運営、食事(配食・会食)サービス、
買い物代行、送迎サービス、家事援助、福祉
マップ作成、防犯パトロール、見守り活動など

● 個人ボランティア登録制度もあります！

ちよだボランティアセンターでは、制度やサービスでは対応が難しい方々の支援として、ボランティアの皆さんのできることで得意分野を活かした、地域を支えるボランティア活動を進めています。個人ボランティア登録制度とは、ボランティア活動を希望する方がボランティアセンターに登録し、ボランティアコーディネーターが相談内容に応じたコーディネートをしています。

例えば、こんなケースのご相談があります。

- ・喫茶店と一緒に行ってほしい
- ・余暇の相手(囲碁や将棋、買い物への同行など)
- ・話を聞いてほしい

→相談内容に応じて、ボランティアの皆さんにお声掛けします。



こんな時どうする？



Q

**介護関係や医療に携わる資格を持っています。
ボランティア活動に活かすことはできますか？**

A

できます。事前に活かしたい資格等ございましたらお知らせください。活動内容は事前に活動依頼者とボランティアとの話し合いで確認します。手を添えたりするなど、身体に触れる軽介助行為や車いすを押したり、食事介助といった介助に係る場合もありますが、医療行為や全面介護に係ること等は資格をお持ちでもできないことがあります。

Q

**活動中に依頼者から宗教の勧誘を受けたり、
政治活動に関わる署名の協力をお願いされましたが、
どうしたらよいでしょうか。**

A

依頼者からそのような誘いがあった場合には、基本的にはお断りください。難しい場合には、活動確認書にある連絡先の担当者に相談してください。また、ボランティアや団体の営利になるような関りや、宗教、思想、政治的な勧誘はご遠慮ください。

Q

活動のお礼に、心付けを渡したいと依頼者から言われました。受け取ってよいものでしょうか。

A

活動に係る経費（交通費や喫食）以外の金銭の授受はご遠慮ください。また、物品の譲り受けも、後に「やっばり返してほしい」と言われた等、トラブルになることがありますので、丁寧にお断りください。
どうしても断りづらい場合は、「ボランティアの担当者」と相談します」とお伝えし、その場での明確な返答は避けましょう。

Q

活動してみたものの、依頼者との関係が何となく上手くいきません。たまにストレスを感じることもあります。活動を受けた以上続けたいと思っていますが…。

A

ボランティアセンターや施設、団体の活動先にご相談ください。無理をせず、活動を休む、辞めるという選択肢もあります。

Q

依頼者自宅での活動中に、茶菓子を出されました。いただいても良いものでしょうか。

A

依頼者との関係性を築くという観点から、お受けしてもいいと考えています。しかし、接待等の過度な申し出がある場合は、遠慮してください。



ちよだ ボランティアセンター ってどんなところ？



ちよだボランティアセンターでは、千代田区内の NPO やボランティア団体、企業や大学などと協働し、在住、在勤、在学の人たち誰もがボランティアに参加 できる仕組みを通して、皆さんと一緒に良い地域づくりをサポートしています。また、災害時には災害ボランティアセンターとしての役割を果たします。

相談・コーディネート

■ ボランティア活動を始めたい人、ボランティアを必要とする人や施設等からの相談を受け、必要に応じてコーディネートします。

ボランティア活動の支援

ボランティア・グループ・NPO・学校・企業

ボランティアの抱える課題の解決に向けたサポート、ボランティアグループの立ち上げ支援、必要に応じた団体同士のネットワークづくりや助成金の案内等を行います。

養成・研修

ボランティア活動について学んでみたいという人、ボランティア活動に活かすことができるコツや知識を習得・向上したい人など様々な幅広い対象や場面に合わせた、講座や学習会を開催しています。

情報発信

ボランティア情報誌の発行 / メルマガの配信 / ホームページの開設 / SNS での情報発信 / 情報ステーション（地域の商店等の店頭ボランティアセンターの広報物を配布できるコーナーの設置）などを通じて、ボランティア活動を広く理解していただき、より活動を始めやすくなるようなきっかけづくりをしています。

ネットワークづくり【企業・学生・災害】

■ちよだ企業ボランティア連絡会

社会貢献活動に関心を持つ区内企業との協働で事業の企画・開催、及び情報交換を行っています。

■ちよだモデルネットワーク

「災害時はもちろん、平時からつながるための連絡会を実施し、顔の見えるネットワークづくりを行っています。

■大学生ボランティアサークルネットワーク

区内大学のボランティアサークル同士の出会いや交流を目的としたネットワークをつくり、企画打ち合わせや情報交換を行っています。区内の清掃活動や多世代交流事業に参加するなど地域とのつながりを作っています。

大規模災害で千代田区が甚大な被害を受けた場合、「ちよだ災害ボランティアセンター」を開設します。ボランティアの支援を必要としている方と災害ボランティアをつなぐ役割を担います。

ちよだ災害ボランティアセンターの主な役割は以下のとおりです。

1

災害ボランティアの受付

2

災害で生じた困りごとの受付

3

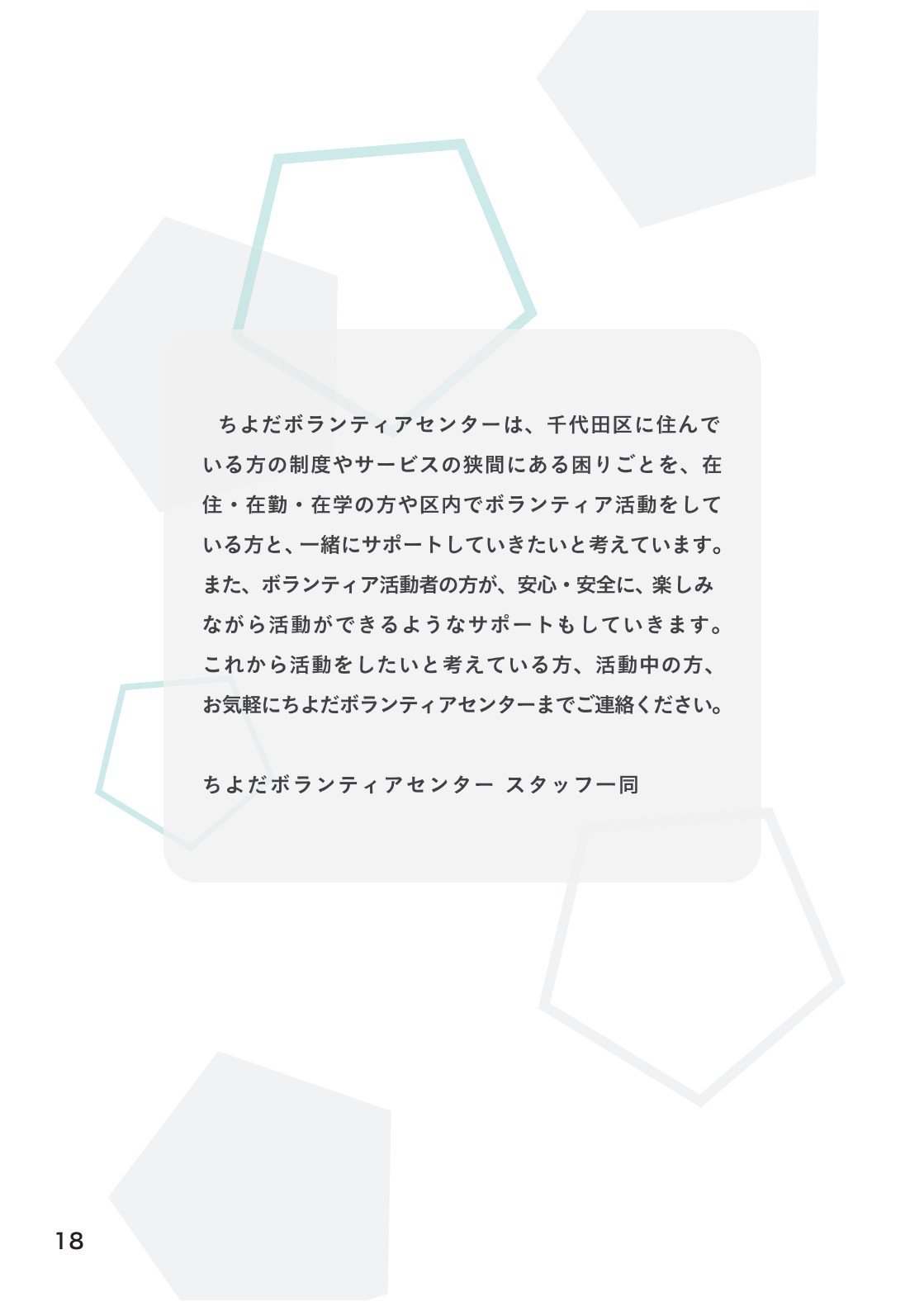
ボランティアコーディネート
(ボランティア活動依頼を収集し、
ボランティアを送り出す)

4

行政や関係機関・団体との連絡調整

5

災害ボランティア活動に関する情報の提供



ちよだボランティアセンターは、千代田区に住んでいる方の制度やサービスの狭間にある困りごとを、在住・在勤・在学の方や区内でボランティア活動をしている方と、一緒にサポートしていきたいと考えています。また、ボランティア活動者の方が、安心・安全に、楽しみながら活動ができるようなサポートもしていきます。これから活動をしたいと考えている方、活動中の方、お気軽にちよだボランティアセンターまでご連絡ください。

ちよだボランティアセンター スタッフ一同

【コラム】

コミュニティ & ボランティア

坂口 緑（明治学院大学）

2020年に発生した新型コロナウイルス感染症の影響により、私たちの生活は一変しました。

改めて東日本大震災時に誰もが感じた人とのつながりの大切さを思い出します。これからの暮らしを考えるきっかけになればとの思いから、2011年に寄稿いただいたコラムを再掲することになりました。ぜひご覧ください。

被災地から進学のために上京してきた大学生と話す機会があった。卒業式を控え、東京での新しい暮らしを夢見ていた時、地震と津波の被害を受けた。高台に逃れた人たちは家族や家屋を失い、避難所で身を寄せ合った。彼も一ヶ月遅れになった入学式の直前まで、避難所で働いた。そして2011年5月に単身で上京した。アパートへの引っ越しを済ませ、まず彼が思ったのは、この町に自分の居場所を作ろう、ということだった。被災地では、高齢者以上に、地元のネットワークをもたない一人暮らしの学生こそが弱者だった。情報が届かず、人数もわからなかった。体力も気力もあり情報収集力にも優れた学生が、実は災害時にどうしようもなく孤立してしまう。そのような現実を知り、彼は新しい町に根付くことを四年間の課題に定めたのだ。

友人たちが週末ごとに被災地へ赴くのを横目に見ながら、彼は、土日になると町の小学校に出かけていった。校庭開放の時間をできるだけ子どもと一緒に過ごした。子どもを通して知り合いが増えていった。

友人といっしょにイベントを企画した。小学校の先生がアイデアを出してくれた。協力してくれる地元の人も出てきた。「近所で買い物をしていると、挨拶してもらえるようになりました」とうれしそうに話す。「これでいつ災害があっても大丈夫」。災害時に孤立したくない。そんな動機で始めた彼の活動は、自分本位なものかもしれない。けれども、被災地で、そして一人暮らしをしている町で彼が重ねているのは、平時も非常時も、個人を越えて役立つ経験である。震災後、私たちの生活には、こんなふうにボランティア活動が根付きつつある。

ボランティアとコミュニティ。どちらも待っているだけでは何も始まらない。けれども、一歩踏み出すことさえできれば、豊かな世界が広がっている。どこかに行こう。誰かに話してみよう。人に任せきりにしてきた世界を、自分たちの手に取り戻すために。

【坂口緑氏プロフィール】

明治学院大学社会学部教授。東京大学大学院総合文化研究科博士課程満期退学。

専門は社会学、生涯学習論。生涯学習の公共性、コミュニティアニズムの教育論、ボランティア活動と市民社会の関係について研究している



ちよだ
ボランティアセンター
ホームページ



メールマガジン
「千代田でつなメール」



ちよだ
ボランティアセンター
Facebook



千代田区社会福祉協議会
ちよだボランティアセンター
〒102-0074

東京都千代田区九段南 1-6-10
かがやきプラザ 4 階

TEL 03-6265-6522

FAX 03-3265-1902

E-mail volunteer@chiyoda-cosw.jp

2021 年 3 月発行

発行／社会福祉法人千代田区社会福祉協議会

ちよだボランティアセンター

デザイン制作者名 竹内 彩乃

イラスト制作者名 今任 綾花